



展示された装備品（P25 対空レーダー装置）の前で記念撮影をする参加者



87式自走高射機関砲を興味深く見学する教諭

「自衛隊に入りたい！」学生たちを魅了した下志津駐屯地記念行事研修

栃木地方協力本部大田原地域事務所（所長 高井一陸尉）は、4月29日（土）、下志津駐屯地創設68周年記念行事研修を実施した。

この研修は、募集対象者及び学校職員に自衛隊に対するイメージ及び組織的募集態勢の向上を目的として実施され、計6名の学生及び先生が参加した。

記念行事では、記念式典・観閲行進に続き、高射学校が保有する対空兵器すべてと陸自ヘリコプターUH-60JAを使用した実戦さながらの対空戦闘訓練展示が行われ、学生及び先生たちを魅了していた。

また、ステージ会場では、高射学校音楽隊による演奏会、乗車体験の他、高校生によるダンス及びグラウンドにおいて装備品展示が行われ、装備品に模したキャラクターたちがそれぞれの装備品を説明するなどし、記念式典や対空戦闘展示の緊張感とは違う、和やかなムードが研修者を包み込んでいた。研修に参加した学生の中には、「来年すぐにでも自衛隊に入りたい！」と目を輝かせながら話す学生もおり、広報活動の手ごたえを感じた。

大田原地域事務所は、「今後も、学校関係者や保護者等も含め参加できる研修を積極的に実施し、募集に繋がる広報活動を実施していく」としている。

宇都宮駐屯地73周年記念行事で広報展！ ～地元住民と絆を深める～



募集ブースを訪れる来場者



迷彩服の試着をする来場者

自衛隊栃木地方協力本部（本部長 梶 恒一郎一陸佐）は5月13日（土）、宇都宮駐屯地で実施された73周年記念行事において広報展を実施した。

当日は曇り時々雨のあいにくの天候であったが、数年ぶりの一般開放と言うこともあり、家族連れを中心に多くの来場者で賑わった。観閲行進や書道パフォーマンス、装備品展示などたくさん催し物が開催される中、地本のブースでは制服試着や自衛官募集コーナーなどを設け、多くの来場者が記念撮影などを行い楽しんでいった。写真を撮っていた来場者からは、「宇都宮駐屯地に初めてきました。自衛官の募集をしていることも初めて知りました。友達にも教えませ」と話してくれた。

また、海の無い栃木県の県民に海上自衛隊を知ってもらえる貴重な機会として海上自衛隊移動広報ブースを展開し、護衛艦の模型や、南極の氷の展示、缶バッジコーナーが設けられ、多くの人で賑わっていた。

栃木地本は「今後も、駐屯地と連携を密にし、地域の皆様に自衛隊を身近に感じていただけるよう活動していくとともに自衛隊への理解の推進及び募集活動に邁進していく」としている。



海上自衛隊移動広報ブースを訪れる来場者



迷彩服の試着をする来場者